

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

地域商社による「金魚の町ながす」魅力向上プロジェクト

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

熊本県玉名郡長洲町

### 3 地域再生計画の区域

熊本県玉名郡長洲町の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

「長洲町雇用創造協議会（シャインながす）」は、町内の事業者を対象に商品開発や販路の拡大等に関する各種セミナーを開催することで、地域産品を活用した商品開発に取り組む個別事業者をサポートしてきた。これにより、新たな商品の開発や新規の販路を獲得するなどの一定の成果は生まれてきている。

しかしながら、事業者単独では大手企業が持つような技術やノウハウを獲得することは困難であり、マーケティング戦略に基づいた高付加価値な商品を開発するまでには至っていない。また、石井食品（株）など町が包括連携協定を結ぶ大手企業の持つ技術や販路を活用することで、これまで以上に付加価値の高い商品の開発や海外も含めた大規模な販路を獲得できる可能性があるものの、小規模事業者や生産者等がこれらの大手企業と直接連携した体制を構築することは困難であり、実現には至っていない。

さらに、観光施策についても、町内事業者と町が連携した観光イベントの開催や金魚生産者による見学会等を実施してきたが、それぞれの取組みが独立して展開されてきたことから、観光客の周遊性の低さや滞在時間の短さが課題となってきた。加えて、開発した商品の販売と観光施策の連携も弱く、イベント開催時における土産物品の販売や飲食店との連携も不十分な状況にあることから、地域の事業者における売上の向上等には結びついていない。

以上のような状況であることから、町内事業者と石井食品（株）などの大手企業の取組みを結びつけるとともに、自らも大手企業のノウハウ等を活用しながら、ワンランク上の商品開発や販路開拓、観光施策等にワンストップで対応できる組織を設立し、各施策の効果を相乗的に高めながら、経済好循環や交流人口の拡大、雇用創出等の効果を創出する必要がある。

#### 4-2 地方創生として目指す将来像

長洲町は、奈良県大和郡山市、愛知県弥富市と並び、全国でも有数の金魚の生産地として広く認知されており、金魚をシンボルとした「金魚と鯉の郷広場」や「金魚の館」等の施設を有し、九州金魚すくい選手権大会等の開催地となるなど、「ながす金魚」は地域産業を支える資源となっている。また、造船やサッシ業などの二次産業に加え、海苔やあさり貝をはじめとした水産物のほか、全国第1位の生産量を誇るミニトマトなどの農作物の生産も盛んな一次産業の町でもある。

そのような中、地域人口の減少と地域経済の縮小を克服し、将来にわたって成長力を確保するため、地方創生関連の交付金等を活用して、官民連携による取組みを特に積極的に展開してきた。その成果として、金属加工を行う民間事業者が、ノリ漁業者のための共同のノリ乾燥施設を整備（異業種によるノリ加工への参入は全国で初めて）したことでノリの生産量の増加に繋がっているほか、大手企業である石井食品(株)をはじめ、(株)DHCや味の素(株)等と包括連携協定を結び、全国シェア1位である石井食品(株)のミートボールに町内で生産された規格外の海苔やミニトマトを材料として使用してもらうスキームの構築等に取り組んでいる。また、金魚の拠点施設である「金魚と鯉の郷広場」にカフェテリアを整備し、観光客の受入れや商品の販売等を行う体制を強化している。

さらに、厚生労働省の「実践型地域雇用創造事業」で設立した「長洲町雇用創造協議会（シャインながす）」において、町内事業者を対象に6次産業化や新商品開発などをテーマとしたセミナーを開催してきたことにより、大学と連携して開発した金魚のえさとなるミジンコをはじめ、ミニトマトを使ったピューレやジャム、ゼリーのほか、金魚タオルやステーションナリーグッズなどが、セミナーを受講した各事業者において開発された。これらの商品は、FOODEXJAPANをはじめスーパーマーケットトレードショーや県内で行われる食の商談会などにおいて、販売促進を行うなどの成果を上げてきたところである。

今後は、これまでの取組みにより関係を築いてきた多様な主体と連携して「長洲町地域商社」を設立して、本町の強みやこれまでの取組みの成果を結集し、ワンランク上の取組みへと深化させることで、さらなる雇用機会の創出と地域経済の活性化、交流人口の拡大につなげていく。

#### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30年度 増加分 1年目	H31年度 増加分 2年目	H32年度 増加分 3年目	KPI増加分の累計
--	----------------	---------------------	---------------------	---------------------	-----------

地域商社による売上高	0円	12,000千円	4,000千円	8,000千円	24,000千円
金魚と鯉の郷広場年間来場者数	290,000人	2,500人	3,000人	3,500人	9,000人
町内における新規雇用者数	0人	6人	9人	15人	30人

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

町内の商工会、観光協会、金融機関などと連携して一般社団法人「長洲町地域商社」を設立し、商品ニーズ等のマーケティング調査や経営戦略の策定、商品開発や販路開拓に関する企業等との交渉やコーディネートを行うとともに、町と包括協定する企業等と町内事業者と連携し、大手企業の持つ技術や販路を活かして、地域産品を活用した付加価値の高い商品の開発や海外を含めた広域的な販路の拡大、町内事業者が儲かる仕組みの構築のため、集客効果やPR効果の高い観光施策の展開などをワンストップで実施する。また、町で取り組む「金魚と鯉の郷広場」を活用した観光交流事業をはじめ、町の地場産業である金魚養殖業の活性化事業と連携し、総合的な商工観光事業を展開する。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

#### ① 事業主体

熊本県玉名郡長洲町

#### ② 事業の名称：長洲町地域商社による町の活力創出事業

#### ③ 事業の内容

町内の商工会、観光協会、金融機関、漁協、大学、企業などを構成メンバーとした運営協議会を立ち上げ、官民連携による一般社団法人「長洲町地域商社」を設立する。地域商社は、金融機関や包括協定を結んだ企業等との連携体制を構築し、マーケティング調整や経営戦略の策定等により、発展的な運営を行う。また、必要な人材については、企業等との交渉やコーディネートなどのスキルを有する事務局長や事務員を全国公募により採用する。

設立後は、地域商社自らが、大手企業の持つ技術を活用しながら、地元で生産された農林水産物等を使用した高付加価値商品の開発に取り組む。

また、地元事業者や地元生産者等と大手企業との調整役となり、大手企業

の持つ海外も含めた様々な販路と地元事業者等が開発した商品や地域商社において開発した高付加価値商品、地元産農林水産物等を結びつける。

さらに、これまで個別に展開してきた観光施策を、町内の金魚生産者や飲食店と連携しながら、一体的に実施する。

地域商社において実施する具体的な取組みは以下のとおり。

#### 【商品開発】

包括協定を結んだ大手企業等技術を活用して、以下のような高付加価値商品を開発。

- ・<石井食品㈱>地元の海苔やミニトマトなど規格外品を活用したミートボール、ハンバーグ用のソース
- ・<味の素㈱>海苔やあさり貝、魚などの漁獲量を向上に効果のあるアミノ酸を取り込んだ漁礁ブロック
- ・結婚式や記念日等をターゲットとした、ディスプレイ化した「生きた金魚」の宅配レンタルサービス

#### 【販路拡大】

包括協定を結んだ大手企業等における、以下のような販路を活用して、広域的に販路を拡大。

- ・<石井食品㈱>ミートボール、ハンバーグなどの商品を全国展開中。学校給食への提供も実施。
- ・<㈱DHC>国内では通販化粧品、健康食品売上1位であり、会員は約1,350万人。アメリカ、台湾、韓国など海外にも販路を展開。
- ・<味の素㈱>国内はもとより、海外130カ国以上に販路を展開。

#### 【観光施策】

「金魚と鯉の郷広場」を中心に集客効果を高めるとともに、町内飲食店等への観光客の周遊性も高めることで、町内事業者が儲かる仕組みを構築。

- ・観光拠点や金魚生産者の見学ツアー、町内飲食店等を周遊するルートの構築及びルートマップの開発
- ・「金魚と鯉の郷広場」内のカフェテリア等で販売する商品や使用するインテリアの開発（生きた金魚が回遊するインテリアや、地元の窯元が作成した金魚をモチーフとした食器やインテリア等の活用。地元の海苔やミニトマトを活用したピザ等の販売。）
- ・金魚ポイントの構築（町で開催する九州金魚すくい選手権大会等の出場者に対し、すくった金魚の数に応じて協定企業や町内の商店などで割引を受けられる「金魚ポイント」を進呈。金魚ポイントの活用により、来町者の周遊性の向上や観光消費額の増加を図る。）

なお、これらの取組みは、P D C Aによりブラッシュアップしながら実施

し、地域商社において収入を確保していくことで、4年目以降は自立した運営ができる体制を構築する。

④ 事業が先導的であると認められる理由

**【自立性】**

町内の商工業者や金融機関と連携し「地域商社」を立ち上げ、町内の地場産品を活用した商品の提供を図るため、「金魚と鯉の郷広場」内に設置するカフェテリアをはじめ、国内外へと広く提供、販売することにより安定的な収益を得ることで、さらに、より付加価値の高い商品の開発ができるようにし、単年度での収益性を見ながら自立した運営へと移行していく。

**【官民協働】**

「地域商社」と町内の事業者や金融機関が連携して、町内の特産品を活用した商品の開発、広域的な販路の拡大を図る。また、町が包括連携協定を結ぶ(株)DHCや石井食品(株)、味の素(株)などと連携し、大手企業の持つ技術や販路を活用した、より付加価値の高い商品開発や海外も含めた大規模な販路の拡大を図る。

**【政策間連携】**

地場産品である海苔やあさり貝、ミニトマトなどを活用した高付加価値化商品の開発や販路の拡大などのマーケティングを推進することで、農業や商業の活性化に繋げる。

町内事業者が儲かる仕組みを構築するため、観光客の周遊性を高めるとともに、集客効果やPR効果の高い観光施策を展開することで観光業の活性化に繋げる。

これらの取組みにより、農水産業、商業、観光が連動する相乗効果によって、地域産業の活性化を図る。

**【地域間連携】**

金魚の生産地である奈良県大和郡山市や愛知県弥富市などと連携し、情報発信や販路の開拓など、金魚を活かした取組みを展開する。また、本町と連携協定を結ぶ愛知県瀬戸市や大分県宇佐市などにおいて、産業体験事業を実施するなど、広域的な交流事業を展開する。さらに、福岡県大牟田市をはじめとする有明圏域定住自立圏の関係市町と連携した修学旅行の誘致などの観光交流事業や、熊本県荒尾市と連携した海苔やあさり貝の生産量の向上に向けた取組みを実施することで、広域的に本事業の効果を高めていく。

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

**【数値目標】**

	事業開始前 (現時点)	H30 年度 増加分 1 年目	H31 年度 増加分 2 年目	H32 年度 増加分 3 年目	KPI 増加分の累計
地域商社による売上高	0 円	12,000 千円	4,000 千円	8,000 千円	24,000 千円
金魚と鯉の郷広場年間来場者数	290,000 人	2,500 人	3,000 人	3,500 人	9,000 人
町内における新規雇用者数	0 人	6 人	9 人	15 人	30 人

⑥ 評価の方法、時期及び体制

**【検証方法】**

産官学金労で構成される長洲町地方創生協議会の評価検証部会において事業内容の評価検証を実施。また、長洲町議会における「長洲町議員全員協議会」において、事業完了後、評価検証を行い、6月までに報告を実施する。

**【外部組織の参画者】**

**【長洲町地方創生協議会評価検証部会】**

行政経験者（元副町長）、崇城大学教授、長洲町商工会長、子育て世代代表

**【検証結果の公表の方法】**

検証後、町ホームページにおいて公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

・法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 20,100 千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成33年3月31日（3ヵ年度）

⑨ その他必要な事項

特になし

## 5-3 その他の事業

### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

#### (1) 金魚と鯉の郷広場を活用した観光推進事業

事業概要：町への観光交流人口の拡大を推進し、地域の活性化を図るため、金魚と鯉の郷広場を中心に様々な取り組みやイベント等を行うもの。

実施主体：熊本県玉名郡長洲町

事業期間：平成30年度～平成32年度

#### (2) 養魚振興事業

事業概要：長洲町の地場産業である金魚養殖業の維持発展のため、町養魚組合への支援による自主力の強化を図るとともに、新品種改良や研究、販路の拡大を推進し、「金魚養殖業」の活性化を図るもの。

実施主体：熊本県玉名郡長洲町

事業期間：平成30年度～平成32年度

## 6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成33年3月31日まで

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

#### 【検証方法】

産官学金労で構成される長洲町地方創生協議会の評価検証部会において事業内容の評価検証を実施。また、長洲町議会における「長洲町議員全員協議会」において、事業完了後、評価検証を行い、6月までに報告を実施する。

#### 【外部組織の参画者】

##### 【長洲町地方創生協議会評価検証部会】

行政経験者（元副町長）、崇城大学教授、長洲町商工会長、子育て世代代表

## 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	H30 年度 増加分 1 年目	H31 年度 増加分 2 年目	H32 年度 増加分 3 年目	KPI 増加分の累計
地域商社による売上高	0 円	12,000 千円	4,000 千円	8,000 千円	24,000 千円
金魚と鯉の郷広場年間来場者数	290,000 人	2,500 人	3,000 人	3,500 人	9,000 人
町内における新規雇用者数	0 人	6 人	9 人	15 人	30 人

## 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

毎年度、産官学金労で構成される長洲町地方創生協議会の評価検証部会において事業内容の評価検証を行い、町ホームページにおいて公表を行う。